論文

幼児のための身近なメディア情報の活用方法とその評価・課題について Vol.1
―3、4、5 歳児の保育を通して―

野崎　真琴　　鈴木　恒一
須田　昂宏

Ⅰ．はじめに

現代社会では、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の高度化による、多種多様な情報の収集やメール、SNS に代表されるコミュニティーなどが進んでいる。このような状況は、我々大人の世界のみならず就学前の幼児の保育・教育にまでもその影響が及んでいる。

保育所保育指針、幼稚園教育要領等には子どもたちの生きる力の基礎を培うために、様々な情報の活用や、これを活動に役立てる力などの育成が示されている。また、保育者養成機関に対しても、文部科学省が取り纏めた「教職課程コアカリキュラム」では、保育・教育の現場における情報機器及び教材の活用が求められていることが明示された。

そこで筆者らは、保育の現場で直接子どもたちと関わる保育者が、情報機器や身近にある様々な情報を活用して保育・教育に活かすことはできないかと考えた。本研究では、保育者のねらい達成を支援するためのメディアの活用を念頭に置き、情報機器や身近にある情報を活用した教材（以下メディア教材）を、筆者らが作成、準備し、これを保育の現場に提供することにより、その活用方法とその効果、さらにそこに潜む課題について、保育現場における保育者や子どもたちの姿を通して、検証することを目的とする。

Ⅱ．研究の方法

１．研究の対象及び時期

＊対象園　愛知県および三重県内の保育所及び認定こども園　5 園
＊対象者　3 歳児・4 歳児・5 歳児計約 150 名、担任保育者 16 名、園長及び副園長 4 名
＊時期　　2020（令和 2）年 7 月～ 11 月

２．調査及び分析の方法

メディア教材の活用方法については、メディア教材を活用した保育の指導計画を担任保育者が作成、実践し、その実践の様子をビデオカメラにより撮影する。その撮影記録と指導計画を基に、保育の展開方法に注目しメディア教材の活用方法について分析した。なお、研究保育を依頼した担任保育者には、1 時間以内の主活動での活用という条件のみを提示し、研究者が作成した 27 種類のメディア保育教材のうち、どの教材をどう活用するかについては、指導計画を作成する段階から担任保育者に一任した。

メディア教材の評価については、研究保育を実施した保育者および研究保育を参観した園長、副

園長を対象に、研究保育実施後にアンケート調査を実施し、研究内容に該当する調査項目の結果からメディア教材の効果について分析した。調査内容は、①メディア教材活用による保育の展開についての評価、②子どもの反応についての評価である。

さらに、メディア教材の評価については、子どもを対象とした聞き取り調査を実施した。研究保育終了直後に担任保育者が子どもに「どうだった？」とのみ言葉を掛け、可能な限りメディア教材に対する子どもたちの個々の声をＩＣレコーダにより記録し、子どもたちの声からその効果の分析を試みた。

メディア教材に対する課題については、担任保育者及び園長・副園長に対するアンケート調査でメディア教材による保育に関する感想・課題に関する記述内容から分析を行った。

なお以上の調査結果の分析は、ＧＴＡ（Grounded Theory Approach）により行った。

３．メディア教材の概要

本研究では、事前にメディア教材 27 種類を作成し、これらの中から保育者が保育に使用する保育教材として自由に選択（使用数等の制限なし）し、これを活用し保育を展開する。なお、展開方法については自由とした。またメディア教材作成に際しては、作成が容易であることを念頭に置いて、以下に限定して行った。

・現在一般社会で活用されているプレゼンテーションソフト“パワーポイント”のみを使用する。
・メディア教材に活用した写真、イラスト等は、インターネットに表示された写真やイラストをコピー、絵本についてはイラストをスキャンして活用する。
・写真、イラスト等は、調査対象児の身近にある環境（事物）を中心に使用する。

なおメディア教材の作成に際しては、著作権に抵触する恐れについて事前に弁護士に相談したが、明確な回答は得られなかった。しかし、著作権法第 35 条において、教育を目的とする場合は、その必要と認められる限度において複製等は認められている。そこで本研究においては、これを送信等により拡散しないこととし、作成・活用した。

４．保育時使用機材について

研究保育時に使用した機材は、パーソナルコンピュータ、プロジェクタ、移動式スクリーン（50in）、レーザーポインタ、IC レコーダであり、これらについては実施当日研究チームによりセッティング及び撤収を行った。

５．倫理的配慮について

調査対象園に対しては、研究目的、調査内容・方法などについて各園園長に対し、書面により説明し同意を得た。子どもの保護者に対しては、本研究についての説明書を配布し、本研究に対する問い合わせには研究者の連絡先を明記し直接これに応えることとした。また映像記録や音声記録については、個人の特定ができないよう、十分配慮して記録・分析を実施した。

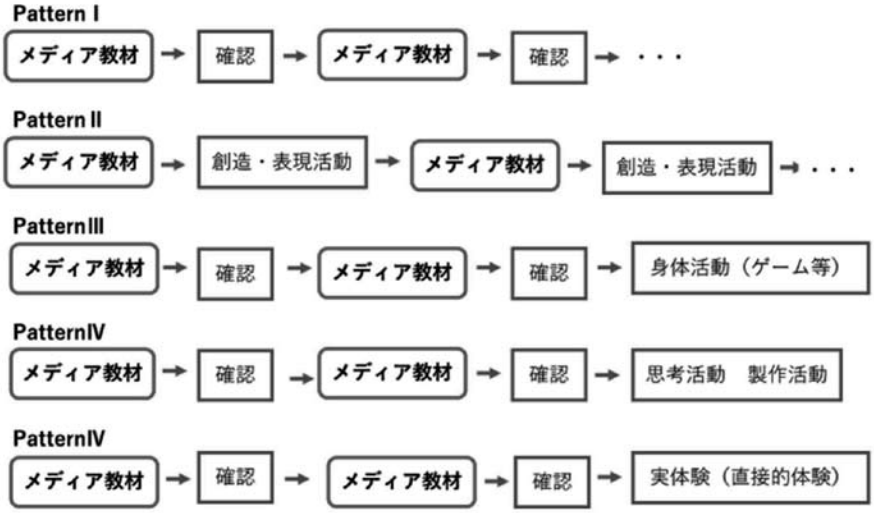
Ⅲ．結果及び考察

１．メディア教材の活用方法

研究対象園 5 園において実施したメディア教材を活用した研究保育計 17 件（クラス）について、それぞれの指導計画と実践の撮影記録を基に、メディア教材の活用方法について分析した。その結果、次の 5 つのパターンに分類することができた。（図表 1）

図表１　メディア教材活用方法の分類

No.	実施日	園名	クラス	担任保育者	メディア教材名	活用分類
1	2020. 7.16	ア保育園	4	A	Part 9　しっぽ　しっぽ　しっぽ	Ⅲ
2	2020. 7.22		5	B	Part 2　△ なんだろぉ～？	Ⅳ
3	2020. 7.29		3	C	Part17　はたらくくるま	Ⅰ
					Part10　ふるーつぱらだいす	Ⅲ
4	2020. 8.19	イこども園	3	D	Part10　ふるーつぱらだいす	Ⅰ
					Part 8　やさいをたべよう!!	Ⅲ・Ⅳ
5	2020. 8.19		5	E	Part 3　い～ くつだ？	Ⅳ・Ⅴ
6	2020. 8.21		4	F	Part18　いぬのおまわりさん	Ⅰ
					Part 9　しっぽ　しっぽ　しっぽ	Ⅲ
7	2020. 9.29	ウ保育園	3	G	Part19　やさいをたべよう!!（Phot）	Ⅴ・Ⅳ
8	2020. 9.30				Part 5　あるぱかさんの　おはなしな～に？	Ⅱ
9	2020. 9.30		4・5	H	Part 5　あるぱかさんの　おはなしな～に？	Ⅱ
10	2020.11.25		3	G	Part 2　△ なんだろぉ～？	Ⅳ
11	2020.10. 6	エ保育園	3	I	Part 2　△ なんだろぉ～？	Ⅳ
12	2020.10.14		5	J	Part 2　△なんだろぉ～？	Ⅳ
13	2020.10.20		4	K	Part10　ふるーつぱらだいす	Ⅳ
14	2020.10.21		3	L	Part10　ふるーつぱらだいす	Ⅲ
15	2020.10.27		5	M	Part 7　みんなのひょうしき	Ⅳ
16	2020.11. 9	オ保育園	3	N	Part19　やさいをたべよう!!（Phot）	Ⅳ・Ⅴ
17	2020.11.10		4・5	O P	Part 7　みんなのひょうしき	Ⅴ



パターンⅠは、スクリーンに映し出される各々の画像を子どもたちがその都度確認するクイズ形式のものである。

パターンⅡは、パターンⅠの活動を通して、個々の子どもたちが持っているイメージを、自由に表現することを楽しみ、これを促そうとするものである。

パターンⅢは、パターンⅠの活動を通して、これに関連したイメージを活用し、ゲームなどの身体的活動を楽しむものである。

パターンⅣは、パターンⅠで気付いたことやイメージしたことを活用し、楽しみながら製作活動や問題解決に活かしていこうとするものである。

パターンⅤは、パターンⅠの活動後に、実物を実際に見たり、触れたり、見に出かけたりするなどして子どもたちが再確認する。この時、確認だけではなく直接本物に関わることにより、新たな発見を楽しむものである。

全17回の研究保育は、それぞれどのパターンの活用方法に分類されるかを図表1に示す。各パターンがとられた回数は、Ⅰが3回、Ⅱが2回、Ⅲが5回、Ⅳが10回、Ⅴが4回であった。このうちⅢとⅣまたはⅣとⅤを組み合わせた実践が合わせて4回であった。このことからとくにパターンⅣが多く採用されていること、また図表1からは特定の園に限らずこのパターンで活動が計画、実践されていたことがわかった。

以上の結果から、保育者によるメディア教材の活用は、5領域の特性や幼児の実体験との関連を考慮しながら計画、実施されていたといえる。

イこども園におけるメディア教材とその後の活動の一場面

２．メディア教材の評価

メディア教材の評価については、保育者、園長・副園長を対象にアンケート調査を行うとともに子どもを対象に聴きとり調査を実施し、その結果を分析することによりメディア教材の効果について明らかにすることを試みた。

（１）保育者の評価

メディア教材に対する保育者の評価については、17件の研究保育を実施した保育者16名を対象にアンケート調査を実施し、延べ18名の回答を得た。

① 保育の展開について

まずメディア教材を活用した保育の展開については、14名（77.8%）が「良い」と最も多く、他4名は「とても良かった」（22.2%）と回答しており、全員が肯定的な評価をしている。

その肯定的な評価の理由については、GTAによる分析結果を図表2に示す通り、３つに大別できる。1つ目に、「子どもの反応」に関するものでこのカテゴリーで36.4%を占める。「興味津々」、「映像によるイメージの膨らみ」、「次の活動への意欲」など、子どもたちが興味をもって参加できたこと、映像によるイメージの膨らみ、次の活動への意欲や繋がりとして効果があったことが窺えた。2つ目に、「保育の展開」に関するもので27.3%であった。「子どもの反応を見ながら進行しやすい」、「大

きな（また動く）映像を見ながら説明がしやすい」、「話を深めることもスムーズ」、「変更がしやすい（目的に合わせたアレンジ）」など、保育者の立場から、子どもの反応や映像を見ながら説明ができ、その展開がスムーズで、変更（アレンジ）もしやすいという効果があったといえる。さらに 3 つ目に、「保育教材の内容」としての意義に関するものであり 36.4％あった。大きな映像を活用することで、言葉や絵だけでは伝わりにくい部分がよりわかりやすく伝えられることや、子ども同士で共有しながら楽しむことができるという意見が見られた。またメディア教材を保育者同士で「共有」できる、一度作成したら「無駄が少ない」などの意見も挙げられていた。

図表 2　メディア教材による保育の展開（GTA）

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード％	初期コード
とても良かった		9	27.3	
	子どもの反応	3	9.1	＊興味津々　＊映像によるイメージの膨らみ　＊次の活動への繋がりと意欲
	保育の展開（保育者）	4	12.1	＊子どもの反応を見ながらの進行(2)　＊映像として動く教材は説明が容易 ＊話を深めることもスムーズ
	保育教材の内容	2	6.1	＊わかりやすい内容　＊楽しめる内容
良い		24	72.7	
	子どもの反応	9	27.3	＊興味を持って参加(2)　＊興味津々(2)　＊*次の活動への繋がり(2) ＊みんなで考える　＊楽しい学び　＊見たり触れたりするきっかけ
	保育の展開（保育者）	5	15.2	＊パワーポイントでの保育はとても良い　＊大きな映像を見ながら説明 ＊子どもの気持ちの受け止め　＊パワーポイントを使用しての保育が楽しい ＊保育の展開がスムーズ
	保育教材の内容	10	30.3	＊変更がしやすい（目的に合わせたアレンジ）(3)　＊大きな映像(2) ＊口頭や絵だけでは伝わらない、視覚的な部分がより伝えられる(2) ＊読みやすく分かり易い　＊写真などを皆で共有　＊一度作成したら無駄が少ない
どちらでもない		0	0.0	
あまり良くない		0	0.0	
良くない		0	0.0	
総　計		33	100.0	

②　子どもの反応について

子どもの反応については、「とても良かった」が 10 名（55.6％）おり、「良い」（38.9％）も合わせると 17 名で、ほとんどの保育者が肯定的に評価している。その評価の理由についての分析結果を図表 3 に示す。まずメディア教材に対する子どもたちの「興味・関心」に関するものが多く 37.2％を占めていた。また、この教材を通して感じられる「楽しさ」が次に多く見られ 25.7％であった。他に、気付いたことなどを「発言」する姿（11.5％）、子ども同士また子どもと保育者で「共有」（8.6％）できる点も挙げられる。

なお子どもの反応については、1 名が「普段と変わらない」と回答しており、その理由として、映像の繰り返しで集中力の途切れ、疲れや飽きが見られたことを挙げており、当然ながら保育においては子どもの年齢や発達過程、日常の姿などに十分配慮する必要があることを改めて確認した。

図表３　子どもの反応について（GTA）

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
とても良かった		22	62.9	
	興味・関心	10	28.6	＊普段と違った教材に興奮気味　＊次に出てくる場面に、期待感　＊凄く盛り上がり ＊スクリーンに注目する時間が徐々に長くなった　＊子どもたちの興味、関心も強い ＊普段見たことのない映像教材に興味津々　＊関心をもつ　＊楽しめていた ＊子ども達は初めてのことに、興味津々で意欲的
	楽しさ	7	20.0	＊楽しんでみていた　＊全員が「楽しかった」「面白かった」と答えていた ＊「楽しかった！」と言ってくれた　＊動く教材は、視覚でも変化が楽しめる ＊楽しく参加していた様子　＊どの子どもも自分なりのものを創り出し、楽しめていた ＊「スクリーンを使って遊べたのが楽しかったから」という子どもの声も上がっていた
	共有	2	5.7	＊映像を通して数の確認を一緒にしたり　＊その場で子どもたちと共有
	分かり易さ	1	2.9	＊イラストや文字が大きく、文字を読めたりわかりやすかった
	慣れ	1	2.9	＊映像の方が慣れた教材に感じたため（驚く子もいなかったので・・）
	発言	1	2.9	＊多くの気付きを発言する姿
良い		9	25.7	
	興味・関心	3	8.6	＊いつもと違う教材に興味深々　＊よく見ていた ＊保育教材を見た後も標識について調べたり、止まれの標識を保育室に貼ると止まったりし ようとする姿が見られた
	発言	3	8.6	＊個々での発言が多く、答えられている ＊何故知っているのかなどを話してくれる子どももいて、反応が良かった ＊友達や保育士が言葉にしたことをまねして口々に発表したり、映像で目にしたことを口に出 したり（実際写真の真似をした顔をする等）していたため
	楽しさ	2	5.7	＊集中してやり取りを楽しむ姿　＊その後聞いた時にも楽しかったという意見が多い
	共有	1	2.9	＊子ども同士話したりする姿
普段と変わらない		4	11.4	
	集中力の途切れ	2	5.7	＊映像の繰り返しでは、後半集中が途切れた ＊スライドの量が多く、途中で疲れてしまったり、飽きてしまった
	変化なし	2	5.7	＊普段と変わらない ＊写真であるため、普段の写真を見せるときと一緒の反応だと感じたため
あまり良くない		0	0.0	
良くない		0	0.0	
総　計		35	100.0	

（２）園長・副園長の評価

メディア教材に対する園長・副園長の立場からの評価については、研究保育を参観した４名の園長または副園長にアンケート調査を実施し、延べ７名の回答を得た。その結果から分析した。

①　保育の展開について

メディア教材による保育の展開については､3 名が「とても良かった」(42.9%)､他 4 名は「良い」と回答し、全員が肯定的な評価であった。

その理由としては図表４より、まず１つ目に、子どもの興味・関心の深まり、活動に対する意欲や主体性､自由な発想など｢子どもの反応｣における効果に関するものが 27.3%を占めた。2 つ目に、保育教材とその後の繋がりある活動の展開、子どもの反応に応じながらの展開など､｢保育の展開における効果に関するもので 27.3%である。3 つ目に、子どもにとって新鮮で興味が持てる、子どもの身近にあるものを題材にしているなど､｢保育教材の内容｣に関するもので 18.2%であった。これらの結果は、先の担任保育者による評価と同様の傾向であるといえるが、その他、メディア教材による保育の展開の仕方や子どもたちへの言葉のかけ方等についての話し合いや相談が理由として挙げられており、この「保育者連携」のカテゴリーは 18.2%あり、担任保育者とは異なる職員組

織全体を見渡す立場ゆえの視点から評価していることが窺えた。

図表 4　メディア教材による保育の展開【園長・副園長】（GTA）

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
とても良かった		4	36.4	
	子どもの反応	2	18.2	＊映像による子どもたちの興味、関心の深まり ＊子どもたちからの「やりたい！」という声
	保育の展開（保育者）	2	18.2	＊保育教材とその後の実体験との繋がりのある保育の展開 ＊指導案通りではなく、子どもの思いや声で展開した保育の展開
良い		7	63.6	
	保育教材の内容	2	18.2	＊子どもたちにとって新鮮で、興味が持てる教材(2) ＊子どもたちの周りにあるものを題材にした内容
	保育者連携	2	18.2	＊保育教材を実践するため、進め方やその後の展開の仕方についての話し合い ＊映像を通して、子どもたちが“考える”ことを大切にするための言葉のかけ方や間の取り方などの相談
	子どもの反応	1	9.1	＊保育教材とその後の実体験を通した子どものより深い理解
	保育の展開（保育者）	1	9.1	＊保育教材展開とその後の活動との繋がり
	親子関係	1	9.1	＊家庭の中でも親子の会話に膨らみ
どちらでもない		0	0.0	
あまり良くない		0	0.0	
良くない		0	0.0	
総　　計		11	100.0	

②　子どもの反応について

子どもの反応についても、「とても良かった」が 5 名（71.4%）、「良い」が 2 名（28.6%）で、全員が肯定的な評価であった。

その理由としては、図表 5 より、メディア教材を通して得られる「楽しさ」（33.3%）が最も多く、次いで「興味･関心」（28.5%）が多く挙げられている。その他、子ども同士の「共有」（15.3%）、様々な発見など「学び」、「分かり易さ」が挙げられていた。以上の子どもの反応に関する評価も担任保育者と同様の傾向であるといえる。

図表 5　子どもの反応について【園長・副園長】（GTA）

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
とても良かった		14	66.7	
	楽しさ	5	23.8	＊予想以上に楽しんでいる子どもの姿(4)　＊自分で作った達成感
	興味・関心	4	19.0	＊子どもたちの強い興味(4)
	学び	2	9.5	＊様々なことを発見　＊遊びながら多くの学び
	子ども同士の共有	1	4.8	＊子どもたち同士考え相談し合う姿
	分かり易さ	1	4.8	＊自然に鑑賞
	保育の展開	1	4.8	＊保育教材と実体験のつながりによる五感を使った保育
良い		7	33.3	
	楽しさ	2	9.5	＊とても楽しそうに参加している姿(2)
	興味・関心	2	9.5	＊興味を持つ(2)
	子ども同士の共有	2	9.5	＊年中児の年長児と声をそろえて読もうとする姿 ＊年長児の言っている言葉を一生懸命聞いて覚えようとする年中児の姿
	分かり易さ	1	4.8	年長児の多くは、文字を読みながら理解
普段と変わらない		0	0.0	
あまり良くない		0	0.0	
良くない		0	0.0	
総　　計		21	100.0	

（3）子どもの声

研究保育実施後にできうる限り多くの子どもの声を聴き取り、その音声記録を基にメディア教材に対する子どもの立場からの評価について分析を試みた。その結果を図表６に示す。

子どもからの声で、最も多かったのは活動全体から得られる「楽しさ・面白さ」（44.8％）といった感想であった。またメディア教材の写真､クイズなど具体的な｢保育教材の内容及び活動｣(41.0％)を挙げる声も多く聴かれた。中には「映画館のよう」だったことが楽しかったと話していた子どももおり、このクラスの担任保育者は“映画館で観る”という想定で、環境構成上の工夫をしながら活動を展開したため、その体験が楽しさや面白さとして心に残ったのであろう。以上は、活動全体、あるいはメディア教材の内容そのものやそれを直接用いた活動に対する感想であるが、メディア教材を直接用いた活動から繋がりをもたせて展開させたゲームや探検などの活動が楽しかったという声も聴かれた。

図表６　子どもから聴き取った声（GTA）

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード％	初期コード
活動全体		144	48.0	
	楽しさ・面白さ	136	45.3	＊楽しかった(125)　＊面白かった(10)　＊皆で楽しくやれたことが楽しかった
	喜び	3	1.0	＊うれしかった(2)　＊すごくうれしかった
	好き	1	0.3	＊好き
	驚き	1	0.3	＊すごかった
	怖い	1	0.3	＊怖かった
	難しい	1	0.3	＊難しかった
	面白くない	1	0.3	＊面白くなかった
保育教材の内容及び活動		122	40.7	
	楽しさ・面白さ	110	36.7	＊保育教材の写真(87)　＊クイズ(21)　＊映画館の様(2)
	驚き	7	2.3	＊保育教材の写真(7)
	難しい	4	1.3	＊難しかった(4)
	楽しくない	1	0.3	＊音がなかったので楽しくなかった
保育教材以外の活動		34	11.3	
	楽しさ・面白さ	34	11.3	＊製作(19)　＊ゲーム(5)　＊絵本(4)　＊実体験(4)　＊探検　＊皆で楽しんだこと
総　計		300	100.0	

以上、子どもから聴き取ることができた声は、その多くが活動に対して好意的なものであったといえる。しかし、中には「難しい」との声も少数ではあるが聴かれたことから、メディア教材を活用する際は、子どもの状況を十分考慮し保育を計画、実施する必要がある。

３．メディア教材の課題

担任保育者、園長・副園長へのアンケートから、メディア教材による保育に関する感想・課題についての回答記述を分析した結果を図表７に示す。この分析結果より、メディア教材の課題について検討、整理すると下記の通りである。

まず、メディア教材を保育に活用する際には、子どもの年齢、発達過程や日常の姿など子どもの実態に十分配慮しながら活用する必要があるということである。アンケート回答には、先にも見た

が、スライドの多さや画像の繰り返しで子どもたちに疲れや飽きが見られたなどの意見があった。今回の調査研究では、担任保育者は子どもの興味や保育のねらいなどを考慮しながらメディア教材を保育に活用したが､その教材は実際の子どもの姿を知らない研究者が作成したものであったため、子どもの実態に即した教材という点で不十分であったといえる。よって保育者が自分の担当する子どもの実態に合わせて自ら教材を作成することで、このような問題は改善されると思われる。

しかし、アンケート回答の中には、今後メディア教材を活用や製作することについて、日常の業務が多忙な中、教材準備にかかる時間的な問題、また情報機器に関する知識・技術不足や苦手意識などを背景に、メディア教材の活用や作成など教材準備がさらなる業務の負担増加につながることを懸念する意見が挙げられていた。その一方で、メディア教材を保育に用いることが、教材準備の時間短縮につながるという意見も見られた。これらを踏まえると、保育者自身の職務状況や、情報機器に関する知識・技術や意識のあり方が、メディア教材の活用に伴って生じる実際の業務負担や負担感に関係してくることが推察される。

したがって、保育者が子どもの実態に合わせてメディア教材を準備、活用するためには、情報機器の技術的な問題や職務の多様化・増大化という問題を改善していくことも課題といえる。

図表７　メディア教材による保育に関するその他の感想・課題（GTA）

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
保育教材		18	62.1	
	利点	10	34.5	＊子どもたちに分かり易く説明する　＊見本を見せるときに活用する ＊より分かり易く楽しめる保育につながると感じる ＊子どもたちの新たな発言、反応を見ることができる ＊保育者自身も学びの多い活動であること　＊保育の中でのいろいろな使い方ができる ＊子どもたちに大きな画面で目で見て情報を入れることができる ＊普段取り入れていなかったこともあり、新鮮でいい刺激になる ＊子どもの興味を広げていくきっかけになる　＊子どもたちの反応を見ることができる
	課題	8	27.6	＊音が出たり、動きがあると、もっと楽しいと思いました。 ＊今回の“しっぽ”のスライドでマニアックな動物を楽しんでいる子もいましたが、難しいと感じる子も多かったため、馴染みのある動物のみでスライドを少なくしてもよいと思う ＊しっぽのスライドの正解に動物の全体、顔が映ると子どもが理解しやすいと思う ＊クラスの壁に大きく映すため難しいと思いますが、写真の色やしっぽがもう少し鮮明に映るとよいと思う　＊画面が鮮明でないと伝わりにくく感じました。 ＊教材の長さや難しさも、年齢にあわせてあると、より楽しさが増すのでは、と思う ＊生き物の住みか等、日常生活では分かり辛いと思うので、子どもたちの発見があるように、本物に似せた情報を与えてあげるとより楽しめるのかなと感じた ＊保育教材として使うには、情報を見るだけではなく、実体験と結びつけるなど工夫が必要
今後も保育教材を活用		4	13.8	
	子どもの反応	1	3.4	＊違う教材でも遊びたいという意見が多かったため
	保育者の思い	3	10.3	＊様々な保育教材を試してみたい　＊まだ1回なので、今後やっていき考えたい ＊子どもたちの反応が気になるので、保育の中に取り入れて色々なパターンを試してみたい
子ども		3	10.3	
	反応	3	10.3	＊子どもたちもネット社会になっている為、見慣れている様子が楽しそうであった ＊いつもと違った保育に子どもたちも興味を持ってくれたこと ＊映像教材に興味を持ち喜んで参加する子が多くいた
保育者		3	10.3	
	感想	3	10.3	＊楽しく保育ができた　＊とても面白い教材　＊とても良い機会となった
園環境		1	3.4	
	課題	1	3.4	＊手軽にコンピューターに触れたり映像が見れる環境が必要
総　計		29	100.0	

Ⅳ　まとめ

以上の研究結果及び考察に基づき改めて総合考察し、保育におけるメディア教材の効果及び課題について得られた知見を整理すると以下の通りである。

メディア教材の効果については、1つ目に、メディア教材を活用することで保育の多様な展開が可能となる点が挙げられる。本研究で、担任保育者による実践から、子どもの姿や発達過程を踏まえ作成した指導計画のねらいを達成するために子どもの反応に応じながら、メディア教材のみの活動の展開、思考活動・表現活動・身体的活動などに繋げる保育の展開、実体験と結び付けた保育の展開など、5領域の特性や幼児の実体験との関連を考慮した様々な活用方法があることがわかった。

2つ目に、保育者が保育を展開する上での有効性が挙げられる。子どもの反応や映像を見ながら柔軟でスムーズな展開、次の活動へ繋がりある保育の展開、保育者間や他の専門職員とも連携しながらの展開などがしやすいことがわかった。

3つ目に、メディア教材そのものの保育教材の内容としての意義である。例えば、大きな映像を用いることで、言葉や絵だけでは伝わりにくい部分をよりわかりやすく伝えられる点、子どもも保育者も皆で一緒に見ることができるためイメージの共有を図りやすい点、子どもの身近にあるものを題材にできる点などである。

4つ目に、子どもたちにとっても興味・関心、楽しさ、活動に対する意欲や主体性、遊びながらの発見や学びなど、幼児期に育まれることが望まれる様々な資質につながる体験が得られる点である。

以上、保育にメディア教材を活用することの効果を挙げたが、本研究ではメディア教材活用の必要性を提起しているわけではない。乳幼児を対象とした保育においては、あくまでも直接体験が最重要であるという前提のもと、情報化の流れは避けられない時代状況に置いてメディア教材が保育において有効であるかどうか､その有効性の範囲について具体的に検証することを試みたのである。

次に、メディア教材の課題としては、保育におけるメディア教材の活用を可能にする環境を整備することが重要な課題といえよう。アンケート回答には、メディア教材について、音や動きがあったらよい等の意見があったが、手の込んだものを作成しようとすれば手間も時間もかかる。本研究では、誰もが手軽に教材を作成できることを念頭にしており、保育者が情報機器の知識・技術を身に付けることで、教材準備の時間を短縮でき、職務軽減につながるのではないかと期待している。保育者が情報機器の知識・技術を身に付け、それを保育で活かすために、物的な環境整備や教育上の支援が求められる。その点において、保育者養成機関として保育現場と連携しながら、直接的な支援や学生の教育という形で支援していくことも課題である。

参考文献

1）文部科学省 「教育課程コアカリキュラム」 2017
2）厚生労働省 「保育所保育指針＜平成 29 年告示＞」 2017
3）堀田博史著 「幼児教育におけるメディア活用の現状とフューチャースクールにおける小学校現場での ICT 利活用」 情報処理 Vol53 no3　2012
4）著作権法 https://www.cric.or.jp/db/domestic/a1_index.html（情報取得 2021/10/1）

付記

本研究は、2020 年度一般社団法人全国保育養成協議会ブロック研究助成を受けたものである。また、本論文は、全国保育士養成協議会令和 3 年度全国保育士養成セミナーにおいて発表したものを、加筆修正したものである。

How to Use Media Information for Young Children and Its Evaluation and Issues Vol.1: Through the Care of 3-, 4-, and 5-Year-Olds

Nozaki, Makoto* Suzuki, Tsunekazu** Suda, Takahiro**

現代社会では、ICTの高度化が進み、我々大人の世界のみならず就学前の幼児の保育・教育にまでもその影響が及んでいる。そこで本研究では、日常溢れかえっている様々な情報を、子どもの保育に活かしていくための方法に着目し、保育者のねらい達成を支援するためのメディアの活用を念頭に置き、情報機器や身近にある情報を活用した教材（以下、メディア教材）を保育現場に提供し、メディア教材を活用した研究保育を実施し、その活用方法とその効果、課題について、保育者や子どもたちの姿を通して、検証することを目的とした。

メディア教材の活用方法については、保育者により展開の仕方は様々であるが、領域の特性や幼児の実体験との関連を考慮しながら計画、実施していることが把握された。

メディア教材の効果については、①保育の多様な展開が可能となる点、②保育者が保育を展開する上での有効性、③メディア教材そのものの保育教材の内容としての意義、④幼児期に育まれることが望まれる様々な資質につながる体験が得られる点が挙げられた。

メディア教材の課題としては、保育におけるその活用を可能にするための物的な環境整備や保育者に対する教育上の支援が挙げられる。その際、保育者養成機関として保育現場と連携しながら、直接的な支援や学生の教育という形で支援していくことも課題である。

キーワード：メディア教材，活用方法，効果，課題

**Nagoya Ryujo Junior College*

***Nagoya Bunka Gakuen Nursery and Kindergarten Teachers' College*